

日本共産党



土屋 知紀

乳幼児等医療費助成制度の拡充を

**問** 乳幼児等医療費助成制度は現在、中学生まで拡充している自治体は、通院では99.6%、入院1200自治体、高校生までは、通院は26.9%、入院28.6自治体となっている。

本市は、通院は2004年に0歳から就学前までに、入院は2005年に小学3年生から小学校卒業までに広げて以来12年間、制度を拡充していない。制度の拡充を英断すること。

**答** 本制度は、本来、国が責任をもつて構築すべきものであり、本市としては、引き続き全国一律の制度として創設するよう、全国市長会を通じて国に強く要望する。制度の拡充は、国の動向を踏まえ、2017年度に実施する「子どもの貧困実態調査」の結果を分析する中で、検討する。

鞆の重伝建指定と港湾5点セットの国史跡指定を

**問** ①重要伝統的建造物群保存地区の選定について、市は8.6ヘクタールの範囲の保存方針・建造物の特定、地区内の管理、防災施設、環境整備などの計画を定め、文化庁へ計画を申し出ることになるが、今後、保存地区の範囲拡大を求める。  
②雁木、焚場、常夜灯、波止、船番所の港湾5点セットが現存しているのは全国でも鞆の浦だ

けであり、国の史跡の指定をめざすこと。

**答** ①まずは、江戸時代、明治時代などの古い建造物が密集して残り、港湾施設とともに港町の特徴をよく表している8.6ヘクタールについて、保存計画を策定し重伝建選定につなげ、保存地区の拡大については、将来に向けた検討課題と考えている。  
②現在、県が老朽化した雁木の復元整備を行っており、並行して県と市が共同で発掘調査を行い、文化財としての価値を調査している。

市民連合



池上 文夫

通学路の交通安全対策と幹線道路網の整備促進を

**問** ①通学路の交通安全対策における、課題のある未着手箇所について改善の見通しは。  
②国道2号松永道路の全線4車線化により期待される効果は。  
③福山道路の整備促進は。

**答** ①「通学路交通安全プログラム」に基づき、関係機関・団体および地域関係者による危険箇所の合同点検を2年ごとに行い、計画的に対策を実施している。未着手箇所については、再度、合同点検を行うなど対策案を見直し、早急に対策を講じる。  
②渋滞が緩和され、スムーズな交通を確保し、交通事故の減少なども期待している。  
③整備促進を加速化するため、行政、議会、経済界の代表者で整備促進期成同盟会を立ち上げ、国に対し、より効果的に働きかけを行う。

子どもの貧困対策は

**問** 2017年度、子どもの貧困実態の調査や、健全育成事業の拡充などに取り組むことは大いに評価する。子どもの貧困は、その保護者の困窮など生活全般の課題である。  
実態調査の内容、スケジュール、対象範囲は。

**答** 実施に当たっては、貧困の実態を浮き彫りにするとともに、連鎖を断ち切る方法を推定しうる

調査内容となるよう、関係課や県と連携する。調査は、小学5年生および中学2年生がいる世帯から抽出した児童生徒およびその保護者を対象とし、調査項目は県が定めた共通項目に、本市の独自項目を加える。  
スケジュールは、県と足並みを揃え、7月中に調査票の配布、回収を行う予定で、調査結果は2018年3月に公表していく予定である。